

☆30年にわたり「享保の改革」を推進し、大御所となっていた徳川吉宗が1751年になくなると、言語障害のあった9代将軍・徳川家重のもとで、側用人政治が復活した（この時の側用人は家重の言葉の唯一解することができる大岡忠光が務めた）。この9代将軍・徳川家重の小姓(世話係)を務めていたのが田沼意次であった。

ためまおきつぐ
田沼意次

10代将軍1 **徳川家治** のとき側用人へと取り立てられて、幕政を主導。さらに老中へと昇進し、側用人から正式に老中となった初の人物となった。10代将軍の側用人となった1767年ご～1786年の20年間を「田沼時代」とよぶ。

Q 1. 田沼政治の特徴は何? [図表P. 194①]

A 1. **商業資本 (商業活動)** を重視する政策 (重商主義) への転換。

1. 経済政策

①商人の活動を保護し、営業税 (= 「**運上**」・**冥加**) を取り立てる。

Q 2. 効率よく税を徴収するため、彼が積極的に公認したものは何? [図表P. 185①②]

A 2. **株仲間**

②幕府による3 **専売制** の拡充…重要品目の製造・売買を幕府でが座を結成し独占、利益を得る。

Q 3. 代表的な幕府直営の座は? [P. 223②] A 3. **銅座**、**真鍮座**、**朝鮮人参座**

③通貨政策

☆ついに田沼は、東日本と西日本の貨幣の一本化に手をつけた。

→4 **南鐐二朱銀** の発行 [図表P. 194①②]

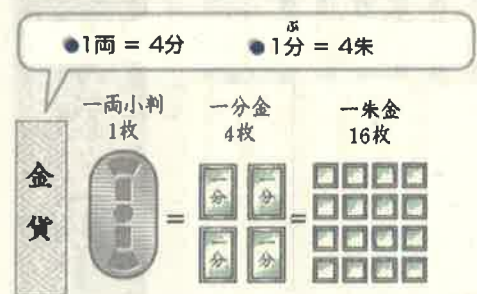
→裏面に「以南鐐5 **八** 片、換小判1両」の文字を刻む

【確認】江戸時代の金貨は「4進法」であった。具体的には…

Q 4. この貨幣のこれまでにない特徴とは? また、その狙いとは?

A 4. **金貨** の単位を採用した銀貨。

→ **計数貨幣** による通貨統一を意図



【田沼失脚後の動向】

○田沼の発行した新貨幣は金と銀との相場変動で利益を上げていた6 **両替商** の猛反発を受け、また二朱銀鑄造による銀不足から起きた銀高金安を次の政権担当者・松平定信によって批判されるなどの逆風にあったが、その利便性は高く評価された。しかし、こののちも「二朱銀」「一朱銀」「一分銀」が発行されたものの、東西日本の完全な通貨統一は明治になるまで実現しなかった。

◇ 耕地面積の拡大停止、米価の低落、諸物価の上昇などにより幕府財政は危機を迎えていました。そこで伝統的な年貢増徴政策からの脱却を図ったのが田沼意次でした。当時の武士社会では商業活動をさげすむ風潮が根強く、商業活動重視の政策転換を図った田沼に対する幕府内部での反感も強いものがありました。そのため「ガイド②」のような「**田沼=賄賂政治家**」「**田沼=強欲**」「**田沼=墮落**」といった悪徳政治家像がかつての学校教育の中でも教えられていました（保護者世代はそうかもしれませんが）。これは田沼政治のあとに寛政の改革を行った松平定信による情報操作（失脚した田沼を徹底批判するなど）の影響も強いようです。

しかし、最近の評価は図表 P. 194右下の「**変わる田沼意次像**」や「ガイド②」で触れた田沼意知の評価などのように、大きく転換してきています。その時代の人々が気づかないほど先を見通していた人物というのは、理解されないまま不当な評価を受けている場合が結構あるのかもしれない。

（勝海舟も福沢諭吉から徹底的に非難されていましたが、これもやや近いものがあるかもしれません。詳しくは幕末で。）

◇ **徳川吉宗**の改革は30年間、**田沼の改革**は約15年間にわたって行われて一定の成果を上げましたが、徳川吉宗路線に再チャレンジした**松平定信**の寛政の改革と**水野忠邦**の天保の改革は、寛政の改革が約7年、天保の改革は2年あまりで挫折します。それでも田沼の政治が「安永の改革」などとよばれないのは、田沼後の政治家たちが行った田沼の評価を落とす動きがのちの歴史研究者たちにも影響を与えた結果なのかもしれません。

◇ **真鍮**とは銅と亜鉛の合金で、金のように輝く性質があります。吹奏楽の金管がおもに真鍮とのもので、田沼意次はこの金属を利用して1枚でそれまでの銭4枚分の価値を持たせた4文銭を発行しました。ただし、これは入試には出ません。「真鍮座」って何かわからないでしょうからひとこと触れました。